
No.4 2001年10月発行

淀川水系 流域委員会 猪名川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第4回猪名川部会の内容……………P.1
- 第4回猪名川部会の説明資料より抜粋……………P.7
- これから開催される委員会および部会等について……………P.13
- これまで開催された委員会および部会等について……………P.14
- 当日資料の閲覧・入手方法……………P.15

平成13年8月7日(火)に第4回猪名川部会が開かれました。



【三井アーバンホテル大阪「生命ホール」にて】

猪名川部会委員リスト

2001.10.2現在

(五十音順、敬称略)

No	氏名	対象分野	所 属 等	備考(兼任)
1	池淵 周一 (部会長代理)	水資源(水文学、水資源工学)	京都大学防災研究所 教授	委員会
2	田中 哲夫	漁業関係(魚類生態学)	兵庫県立姫路工業大学自然・環境科学研究所 助教授	-
3	畑 武志	農業関係	神戸大学農学部 教授	-
4	服部 保	植物(植物生態学)	兵庫県立姫路工業大学 自然・環境科学研究所 所長、教授	-
5	東山 充	地域の特性に詳しい委員	特になし	-
6	尾藤 正二郎	マスコミ	神戸親和女子大学文学部 教授	委員会
7	畚野 剛	地域の特性に詳しい委員	川西自然教室 代表	-
8	細川 ゆう子	地域の特性に詳しい委員(住民運動)	猪名川の自然と文化を守る会	-
9	本多 孝	地域の特性に詳しい委員(環境教育、人と自然のかかわり)	みのお山自然の会 会長	-
10	松本 馨	地域の特性に詳しい委員(地域自然保護活動、淡水生物調査、環境(自然保護)教育)	池田・人と自然の会 代表	-
11	森下 郁子	動物	淡水生物研究所 所長	-
12	矢野 洋	水質	神戸市水道局水質試験所 所長	-
13	吉田 正人	自然保護(自然保護、生態学)	財団法人 日本自然保護協会 常務理事	委員会
14	米山 俊直 (部会長)	水文化	京都大学 名誉教授 大手前大学 学長	委員会

注1：対象分野欄の()は委員の専門を示しています。
注2：尾藤委員、吉田委員は平成13年9月21日付けで猪名川部会委員に就任されました。

第4回猪名川部会の内容

10名の委員が出席し、審議が行われました。河川管理者から水質調査や猪名川の現状（環境）に関する説明がなされ、委員との質疑応答が行われました。また、都市河川の典型として「猪名川モデル」を定義し、委員会に提出することが部会長より提案され、委員より意見が寄せられました。

第4回猪名川部会(2001.8.7開催)速報

2001年10月5日現在

1. 部会長からの説明
- 2000年の水質調査で、猪名川がワースト5にランクされた。猪名川は都市河川の典型的な例であり、今後、淀川本川や琵琶湖も同じところまで至るかもしれない。
 - 都市河川の典型的な例として、「猪名川モデル」を定義し、できるだけ早く委員会に提出するところまでもっていきたい。次の運営委員会でこのことについて提案したい。
 - 「猪名川モデル」として名前を付けるに値する最適解を総力を結集して見つけ出したい。
- (河川管理者からの補足説明)
- 部会長の要請により河川管理者より資料2補足(7月26日に発表された2000年の全国一級河川の水質調査結果に関する資料)の説明が行われた。
- (主な発言内容)
- 水質調査の調査地点の選定根拠は何か。調査地点の一つである利倉は、下水処理場の排水が流れ出すところであり、猪名川でも水質の悪いところである。合理的な調査地点の選び方はないのか。また、各河川との比較において、BODの平均値をその河川の実状として出すということが妥当なのか。
 - ワースト5に入ったことは市民の感覚とは違っており、この調査結果が実態に即していないように感じる。河川管理者からマスコミに対しての情報提供の仕方に問題があるのではないか。
 - 調査地点は、直轄区間の上・中・下流からバランス良くサンプリングしている。これは環境省によって決められており、全国共通の方法である。(河川管理者)
 - 3つの調査地点の中で、利倉は下水処理場の排水ポイントとなっているため、BODの値が他の地点に比べてかなり高くなっている。(河川管理者)
 - 記者発表では、ワースト何位といった発表はしていないが、マスコミとしてはワースト何位といったほうが記事になりやすいので、このような形の記事になっている。現在、猪名川の水質はそれほど悪くはない。調査が開始された1972年からみると大幅に改善されており、全国の河川も同様に改善されている。(河川管理者)
 - 猪名川と藻川で水質が全く変わるというのが不思議で、子ども達と調べたことがあるが、猪名川は用水路との合流箇所が多く、合流のたびに水質が悪くなっている。用水路には、工場から航空機や車体の洗浄水が流れ込んでいるという噂もある。噂が事実かどうかも含めて、実態をきちんと調べるのが重要である。

- 自分勝手な方がたくさんおり、その積み重ねが川を汚している。浄水場で水をきれいにするのは良いが、そのためには税金がかかる。市民の意識を向上させる方が税金の節約になるのではないか。

2. 第3回、第4回委員会の概要

- 庶務より資料1を用いて、第3回及び第4回委員会の概要が説明された。

3. 水生生物調査についての報告

- 7月22日に猪名川総合開発工事事務所主催で行われた水生生物調査について、当日参加された本多委員より報告がなされた。
第3回部会（現地視察）の感想発表会において、ある委員から「観察会など、実際に川の中に入って現状認識することも重要なのではないか」という意見が出されました。これに対して、猪名川総合開発工事事務所より、「7月22日に余野川において水生生物の調査を行う予定なので、希望する委員には参加頂けるよう手配したい」との申し出がありました。

4. 猪名川の現状（環境）についての情報提供

- 河川管理者より猪名川の環境について以下の説明が行われた。
 - ・水質
 - ・生態系
- 畚野委員より資料2について以下の説明があった。
 - ・市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点

（主な発言内容）

- 市民の意識が大切という意見があったが、不法投棄などについては市民の側からも考えることが大切である。（部会長）
- 畚野委員ご指摘のダム下流の流量については、利水や環境の中で平常時の流量をどう確保するのかという点から、今後説明させていただきたい。（河川管理者）
- 猪名川は明らかに上流部と市街地域、下流域で水質が違う。この辺りをどう考えるのか。オオサンショウウオについても、上流の方で生息しているが、土砂が入ると生息できなくなってしまう。市街地域においては、フラッシュ水が非常に高いBOD値を示すという話があり、降雨後に非常に高い汚染水が入ってくる。
- 「猪名川モデル」といったモデルを考えるとすると、いろいろなケース別にある程度の方向付けをしなければならない。
- 大和川と猪名川がワースト5に入っているのは、水質を表す指標としてBODを用いていることも要因で、その点に問題がある。BODは、調査地点の状況や水の採取の仕方に左右されやすく、不安定な値である。
- 猪名川は都市河川の中でこれほどの優等生はいないというほど良くなっている。しかし、今のような調査方法では良くなっているということが表現できない。表現できるような項目を選び直さなければならない。

- 鮎がすむ、すまないという問題は冬の間に生物がいるかどうかに関わりがある。鮎は水面近くに浮いている藻は食べられず、生物がいない状態になった川に放流しても結果的に定着しない。今日では、鮎の生息は水質というより川の生産基盤に関わる生態系全体の問題になりつつある。
- 猪名川のように人と関わりながら共存してきた川は、人が関わりを止めた時点で、放置された休耕田と同じような状態になり、外来種のように、本来そこにいなかったものを増やす条件をつくってしまう。
- 川の環境の実態とデータが違うのではないかという意見があるが、いろいろな調査の方法がある。日本自然保護協会では、人と自然とのふれあいを評価する方法の開発に取り組んでいる。水質だけでなく、人々がその河川をどう思ったのかという気持ちもデータとして集めることが、河川を評価することにつながっていく。
- 河川と人がどう関わっていくかというところに、インタープリター（通訳）が必要になってくるのではないか。ただ単に歴史や文化を伝えてだけでなく、事物の背景まで話すことがインタープリテーションであり、話す人がインタープリターである。この整備計画の中にもしっかりと位置づけたい。
- 市民と河川を結びつける「通訳」が必要、という意見は重要である。（部会長）
- 水生生物が河川で生息するために必要なのは、第一に水量であり、その次に水質、そして河川の物理的、生物的な構造であると思う。その中で一番人間とあつれきを起こしやすいのは水量である。渇水時には人間も水が必要だが、魚も必要である。「猪名川モデル」において、水量を考えるのであれば、渇水時に人間の生活活動を犠牲にして、生物のために水を流すという決断が必要ではないか。
- 「猪名川モデル」を考える意味では、無謀な開発をしている所は元に戻すという決断も30年後を考えると必要である。例えば、銀橋の狭窄部では、拡張を前提とするのではなく、浸水区域にある住宅を移転させ、遊水池の機能を復活させることも考えられる。
- 「猪名川モデル」の大きな目標として、都市河川でありながら海から上流まで勝手に魚が戻ってくる河川を目指したい。
- 理想は高く、ということで将来像を考えることは重要である。100年の大計で考えた場合、元に戻すこともこれからは人口が減っていくので可能かもしれない。（部会長）
- 都市公園の中で、河川敷の占める割合がかなり大きいという話があったが、農地もかなりな大きさである。このような農地の役割を評価していくことが環境保全上、また歴史的な土地利用の維持という意味でも重要だと思う。
- 農地を貯留施設としてみた場合、1000haの農地で、10cm 嵩上げを行うと、100万t程度の貯留能力が確保できる。農地の高度利用を図ることで、生産を続けながら貯留確保も可能である。制度的、公的な仕組みを作ることによって農業を支えることにもなる。
- 「猪名川モデル」を考える場合、いかにして二千年来の水田、緑の流域を我々自身で守っていくのか、という点が重要である。整備計画で最も重要視されているのは治水の確保のように思うが、治水のためにも土地利用を考えていく必要がある。
- 「猪名川モデル」の中で河川の周辺の問題も出すのであれば、開発区域や水田、畑、

樹林などの取り扱いについても考える必要がある。

- 猪名川の河川敷の中での高水敷の面積、その内の運動公園の占める割合を教えてほしい。また、各市町の都市公園の内、河川内の公園の割合、さらにその中で運動公園の占める割合を教えてほしい。それから、河川敷における運動公園の意義とはいったいどういうところにあるのかについても教えてほしい。
- 次回は、「川と人との関わり」について議論されると理解しているので、その時に説明したい。(河川管理者)
- 水辺の生物について河川管理者からの説明が少なかった。猪名川は、長期的に見ると良くなったと言われているが、この10年程度で見ると少しずつ悪くなっている。魚種の中でも減っているものと増えているものがはっきりしている。非常に減っていて、手を打たないと本当にいなくなってしまうのがタナゴ類である。
- 多様な種を保存することを考えるのであれば、猪名川本流だけでなく、関連する支流なども含めて考える必要がある。
- 鮎の遡上など、生物が行き来するためにはある程度の水量が必要である。箕面川は途中で枯れるため、鮎が遡上できなくなっている。河川の物理的構造に少し手を加えることで水量の少なさを補えないかと考えている。
- たくさんの魚種が海から行き来できるルートの確保、これを「猪名川モデル」にしたい。
- タナゴは砂泥底に生息する二枚貝に産卵する。河川整備の際には、砂泥が堆積しないよう砂泥底を無くしており、これによって二枚貝が減っていることがタナゴの減少の一因となっている。
- 海から上流までつないでほしいと言ったが、これまで、海と川、川と用水路、用水路と田、田とため池といった河川周辺の水域ネットワークも潰されてきている。
- 堤防の植生に外来種が増えてきている。繁殖力の強さも原因だろうが、堤防の環境自体が外来種に適したものに変わってきているのではないか。川の環境も同様のことが言えるのであれば、ここまで日本の環境が変わってしまっているのか、を問い直す必要があるのではないか。そういうことを検討する会であって欲しい。
- 外来種であるセイタカアワダチソウが増加したときに、「放っておけ。しばらくすれば減少する」と言った人がいた。そういう自然の摂理もあるようだ。(部会長)
- 猪名川の流域は人間も「外来種」が増えている。環境を動かない、一定のものだと考えず、動いて行くものだと考える必要がある。動いている状態が自分達にとって快適でない方向へ向かっているときに手をさしのべるぐらいのことしかできない。
- 何が快適でないかは流域で考える必要があるが、一つの答えを出すのではなく、それを議論するプロセスが重要である。
- 破壊とは、環境が元へ戻ろうとするポテンシャルをなくすことである。ただし、こういう環境をつくらう、ということは開発になる。

5. 次回の部会について

- 米山部会長より、予定されている第5回、第6回部会の開催日が近接しているので、第6回の開催予定日である10月9日に統合し、会議時間を2時間より延長して開催してはどうかと提案があり、了承された。

- また、次回部会を目途として「猪名川モデル」の箇条書き程度のものを作りたいとの提案があった。

6. 一般傍聴者からの意見聴取

(一般からの発言)

- 阪神高速の池田線延伸部の近くに居住しているが、川の中に2、3本橋脚が建てられ、高速道路のために長年親しんできた川をずたずたにされてしまった。この2、30年の間に猪名川でこれだけひどく傷つけられた所はないと思う。生態系も何もない。
- 20年前に、川西市、阪神高速道路公団、旧建設省と我々の団体の4者で協定を結び、多自然を考えた工事をしてくれと要望してきたが、中途半端な対応になっている。皆さんが理想とされるような工事は実現していない。平成11年に川西の嵐山計画を作成し、当時の所長と確認書を結び、パースも作ったが、一向に協議に入っていない。この10月にさらにその延長線上での工事が実施されようとしており、非常に困っている。
- なぜ地元の協定まで結んだ団体に何の呼びかけもせず、このような流域委員会や部会を開くのか。
- 国土交通省や猪名川工事事務所は、流域委員会やこの部会の意見を本当に吸い上げる意思があるのか。
- 部会長はこのような実状だということを、委員会にぜひ訴えて頂きたい。
- 以前から流域住民から意見を吸い上げる機会を設ける必要があると思っていた。運営会議でも伝えることにしたい。(部会長)
- 国土交通省は「住民の意見を聴きたい」と言い、我々は「聴かせたい」と思っている。強力にそれを推進する、例えば「流域協議会」を結成することも検討頂けたらと思う。
- この地区では全国で唯一の環境保全ということで協定を結んでおり、これに基づいていろいろな約束をしてきているが、履行されない。川を守るためには学問的な議論も必要だが、旧態依然の会議になっているのではないかと危惧がある。国土交通省にはこの機会に一番大切な抜本的な部分で住民の意見を反映してほしい。
- 第1回部会での質問(参考資料1の3ページ目参照)に対して、資料や返答がまだ出ていない。そのことを忘れないでほしい。

(委員からの発言)

- 猪名川に関わる市民の意見をいかにして反映させていくかは大きな課題だと思っている。その中で、猪名川に関わる市民団体としてどのような団体、グループが活動しているのか、河川管理者や庶務で把握している情報を出してほしい。

以上

注1：速報は、会議の概要をできるだけ早くお伝えするものであり、随時修正される可能性があります。なお、議事内容の詳細につきましては議事録をご確認下さい。最新の速報及び確定した議事録はHPに掲載しております。

注2：2001年10月5日、速報(2001年8月28日現在版)を修正しています。

第4回猪名川部会の説明資料より抜粋

■ 本多委員の説明資料より
7月22日に猪名川総合開発工事事務所主催で行われた水生生物調査について、当日参加された本多委員より報告がありました。以下に主な説明資料を掲載しています

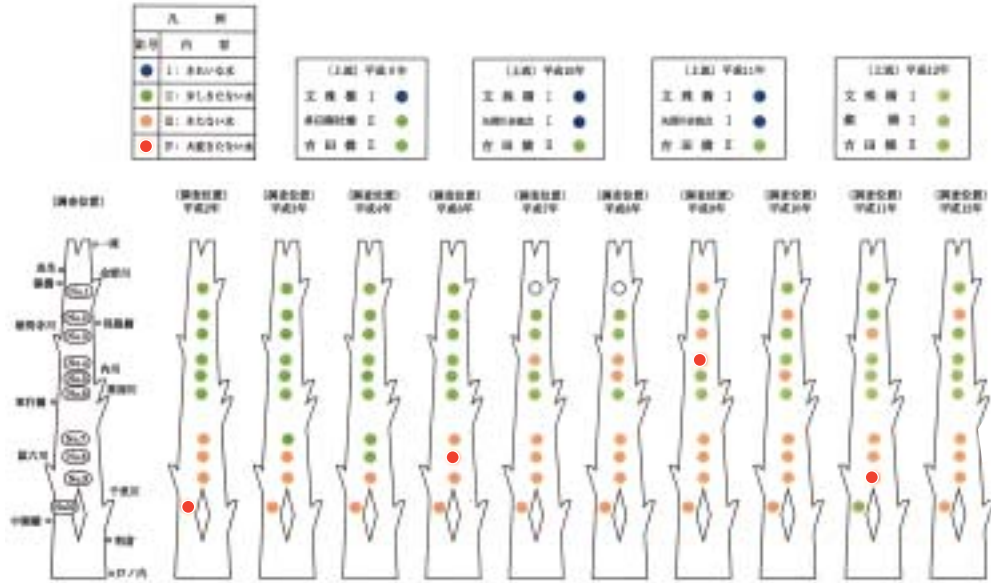
■ 水生生物調査風景



■ 川の指標生物



■ 水生生物による水質状況図(簡易調査)



■ 説明資料一覧

・配付資料一覧

資料名		作成主体	ボリューム ()内は頁数
議事次第		庶務	A4(1)
資料1	第3回、第4回委員会速報	庶務	A4(11)
資料2	委員の方からの提供資料「市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点」レジメ	委員	A4(18)
資料2(補足)	新聞記事(7月26日に発表された2000年全国一級河川の水質調査結果)など	河川管理者	A4(2)
資料3	会議の運営に関する決定事項	庶務	A4(2)
参考資料1	第1回猪名川部会速報、第2回、第3回猪名川部会(現地視察)の概要	庶務	A4(5)
参考資料2	委員および一般からの意見	庶務	A4(13)

・配付資料以外に説明に用いられた資料

資料内容	説明者
猪名川の現状(環境)に関するパワーポイントデータ	河川管理者
水生生物調査に関する説明資料(当日の写真、調査に使用したシート等)	本多委員

紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.15の「当日資料の閲覧・入手方法」をご覧ください。なお「配付資料以外に説明に用いられた資料」については、閲覧のみ可能です。

■ 猪名川の環境の現状（河川管理者からの説明資料）より

河川管理者より、猪名川の現状（環境）についての説明が行われました。以下に説明資料より主なものを掲載しています。

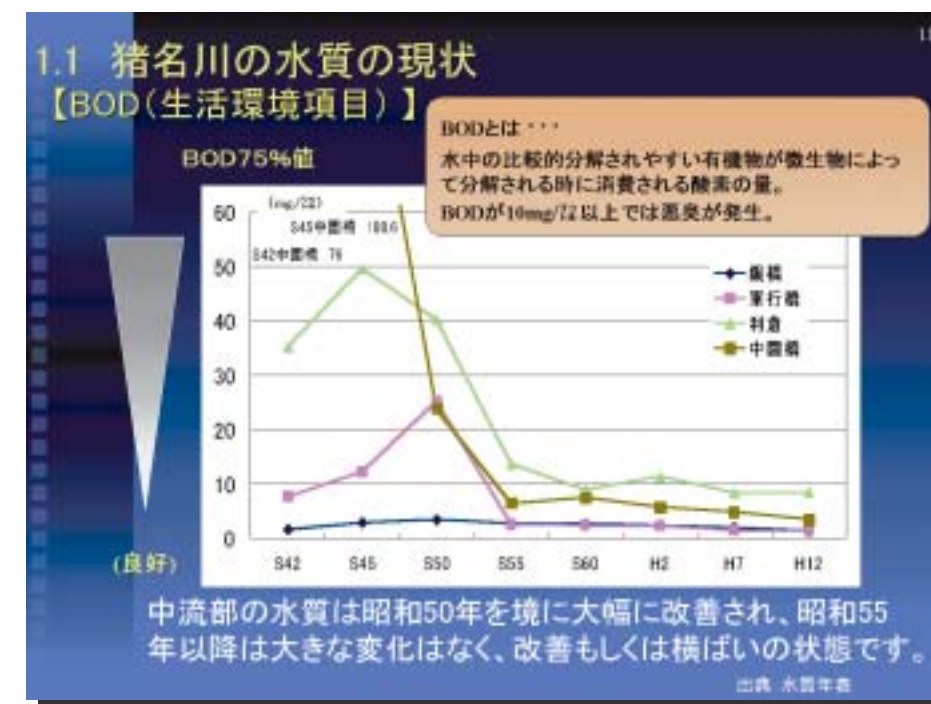
● 猪名川全体の環境 - 「改修前の猪名川」



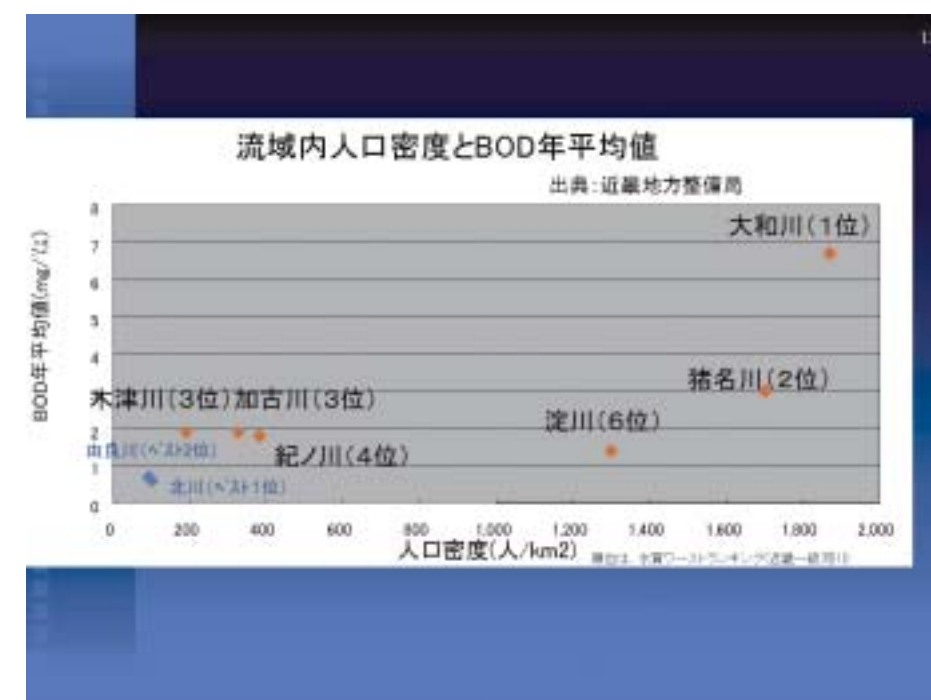
● 猪名川全体の環境 「現在の猪名川の河口域」



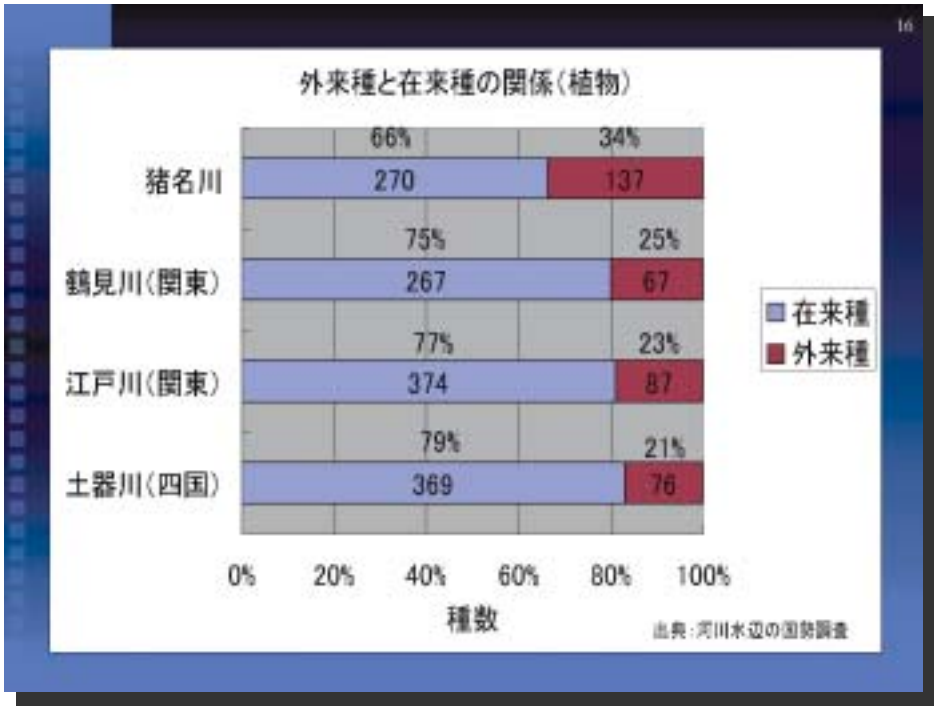
● 猪名川の水質 - 「BOD(生活環境項目)の推移」



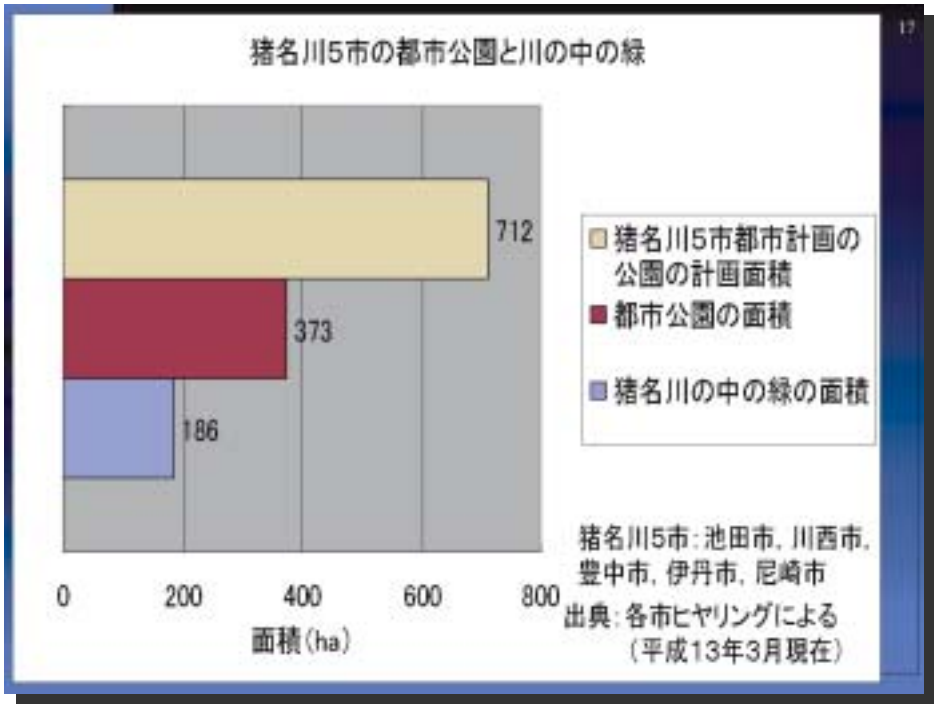
● 猪名川の水質 「流域内人口密度とBOD年平均值」



●都市河川猪名川の緑 -「外来種と在来種の関係(植物)」



●都市河川猪名川の緑 -「猪名川5市の都市公園と川の中の緑」



■ 畚野委員からの提供資料

「市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点」レジメ（資料2）より

畚野委員より、資料2を用いて猪名川の環境に関する説明がなされました。その一部を抜粋して掲載いたします。

ダムに関連して

毎冬、一庫ダムを起点として水鳥をカウントしています。(参照1)今年ダムではオシドリが見られませんでした。今後の推移を見守りたいと思っています。

ダムに関する問題としては、次の2点をすでに会議で指摘しております

1. 移入種（魚）についての考え方。
2. 下流の生態系維持のための放流。

私たちは、ダム湖畔の道路急斜面（草付）で陸生のヒメボタル（県RDB（レッドデータブック）の地域限定貴重種）がほぼそとと生息していることも見つけています。道路改良には慎重であってほしいとおもっています。

支流に関連して

私たちは、昨年夏、猪名川本・支流の水質や環境の調査を子供たちと実施しました。(参照2-4)調査した範囲内では銀橋下流側で流入する「鼓ヶ滝川」の汚染が最もひどかったようです。

比較的きれいで、子供と一緒に入ってみたい川として、私たちは支流芋生川（多田大橋上流で本川に合流）に注目しています。近年は毎年7月観察会例会のコースに選定しています。さらに今年は例会の前に、川の中のゴミ拾いをして、ひどい現状を身を持って体験しました。また上流部の不適切な開発行為の影響で、川が死ぬのではないかという意見も出ています。またここは市内有数のゲンジボタル（県RDBの要注目種）生息地でもあります。(参照5-12)

市当局に要望し、なんとか現状を改善できないかと働きかけています。

課題としては（ここに限りませんが）

1. 不法投棄物による汚染への対策。
2. 子供が安心して入れる川の確保。
3. 上流部の道路工事による土砂流入などの防止。
4. ゲンジボタルが生息できる自然環境の維持など。

もっと下流の寺畑前川は小規模な都市河川の典型と思いますが、浸水被害を改善するために、川道を掘り下げ等勾配化する工事が本年度予定されています。昨年の環境調査でここにメダカ（県RDBの要注目種）が生息することがわかりました。

私たちは今年2回、ここのメダカを捕集し、「メダカの里親」を募っています。工事終了後、復元の課題も残っています。(参照13)

なお、この支流では近年の急斜面地の小規模開発（こまぎれ申請されるため調整池の設置が指導されていない）が、浸水頻発の一因ではないかという意見も多いようです。開発地域は隣接市であり、広域合併の研究会がスタートしているが、まだこのような問題にまで議論が及んでいない様に見える。

● 資料2に掲載された参照資料目次

題目	頁	原典の号数：（発行日付）
1. 2001年川西市市内水鳥一斉調査報告	1	87：（2001.3.1）
2. 水質調査下流班：子どもたちの声	3	80：（2000.8.1）
3. 猪名川本流支流水質調査結果	4	同上
4. 川の調べ方いろいろ	5	同上
5. こんな近くに親子で遊べる清流があった！	7	92：（2001.7.27）
6. 岩から とびおりののが おもしろかった	7	同上
7. 芋生川、静かな中にも異変多々あり	8	同上
8. だれがゴミを投げるんだろう？	9	同上
9. アホになって、芋生川のゴミ拾いをした	10	同上
10. 「川西最後の清流」芋生川があぶない！	11	同上
11. 「川西最後の清流 芋生川」を守るための要望書	13	同上
12. ゲンジボタル発生頭数の推移（94-2001年）	14	91：（2001.7.3）
13. メダカはコンクリート底が嫌い	14	同上
14. 住民の声ははたして反映されるのか？	16	90：（2001.6.1）

注:原典は「こげらだより」川西自然教室

●資料2の参照資料1より



これまで開催された委員会および部会等について

これまで(10月12日現在) 以下の会議が開催されています。

	会 議	開催日
委 員 会	第1回委員会	平成13年2月1日(木)
	第2回委員会	平成13年4月12日(木)
	第3回委員会	平成13年6月18日(月)
	第4回委員会	平成13年7月24日(火)
	第5回委員会	平成13年9月21日(金)
琵琶湖部会	第1回琵琶湖部会	平成13年5月11日(金)
	第2回琵琶湖部会(現地視察)	平成13年6月8日(金)
	第3回琵琶湖部会(現地視察)	平成13年6月25日(月)
	第4回琵琶湖部会	平成13年8月22日(水)
	第5回 琵琶湖部会	平成13年10月12日(金)
淀川部会	第1回淀川部会	平成13年5月9日(水)
	第2回淀川部会(現地視察)	平成13年6月2日(土)
	第3回淀川部会	平成13年7月6日(金)
	第4回淀川部会(現地視察)	平成13年8月9日(木)
	第5回淀川部会(現地視察)	平成13年8月11日(土)
	第6回淀川部会(現地視察)	平成13年8月19日(日)
	第7回淀川部会	平成13年9月10日(月)
猪名川部会	第1回猪名川部会	平成13年5月23日(水)
	第2回猪名川部会(現地視察)	平成13年6月7日(木)
	第3回猪名川部会(現地視察)	平成13年6月21日(木)
	第4回猪名川部会	平成13年8月7日(火)
	第5回 猪名川部会	平成13年10月9日(火)
その他	設立会	平成13年2月1日(木)
	発足会	平成13年2月1日(木)
	第1回合同懇談会	平成13年2月1日(木)

当日資料の閲覧・入手方法

紙面の都合上、ニュースレターでは資料内容を省略していますが、以下の方法で資料を閲覧、または入手することができます。

- ホームページ
委員会で使用した資料は、ホームページで公開しております。アドレスは以下の通りです。
<http://www.yodoriver.org>



- 閲覧
資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。
- 郵送
郵送による資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております（希望部数が多い場合には、コピー代も実費でいただくことがありますので、予めご了承ください）。
ご希望の方は、別紙 の「FAX送信票」にご記入のうえ、FAXまたは郵送で庶務までお申し込みください。

別紙

淀川水系流域委員会
ご意見用 F A X 送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 森永、北林)

1. 淀川水系流域委員会へのご意見をご記入ください。

寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。
ご意見を公表する場合には、団体・会社名(または居住地)とお名前も公表いたしますので予めご了承ください。

2 .下記にご記入下さい。

団体・会社名()
ご住所(〒)

T E L()
E-Mai()
お名前()

別紙

淀川水系流域委員会傍聴申込
および資料請求用 F A X 送信票

FAX:06-6341-5984

淀川水系流域委員会 庶務宛
((株)三菱総合研究所 関西研究センター 森永、北林)

1. 委員会または部会への傍聴を希望される方は、下記に希望する会議の名称と開催日をご記入下さい。会議開催の4日前までに傍聴を受け付けた場合は「受付のお知らせ」ハガキをお送りします。
会議のお知らせは、本ニュースレターのP.13もしくはホームページを参照下さい。

開催日 例)11月29日	会議名 例)第6回委員会		

2 第4回猪名川部会の資料郵送を希望される方は、必要な資料の部数を、下記リストにご記入下さい。

資料名		ボリューム ()内は頁数	部 数
議事次第		A4(1)	
資料1	第3回、第4回委員会速報	A4(11)	
資料2	委員の方からの提供資料「市民たちが見た猪名川の環境：現状と問題点」レジメ	A4(18)	
資料2(補足)	新聞記事(7月26日に発表された2000年全国一級河川の水質調査結果)など	A4(2)	
資料3	会議の運営に関する決定事項	A4(2)	
参考資料1	第1回猪名川部会速報、第2回、第3回猪名川部会(現地視察)の概要	A4(5)	
参考資料2	委員および一般からの意見	A4(13)	

3 .下記にご記入下さい。(必ず ~ 全てにご記入下さい)

団体・会社名()
ご住所(〒)

T E L()
E-mai()
お名前(複数名での傍聴を申し込まれる場合には、全ての方のお名前をお書き下さい。)

淀川水系流域委員会 猪名川部会ニュース No.4

2001年10月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

株式会社 三菱総合研究所 関西研究センター

.....
研 究 員：新田、柴崎、原

事務担当：桐山、森永、北林

〒530-0003 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル7F)

TEL ☎ 06 6341-5983 FAX ☎ 06 6341-5984

E-mail:k-kim@mri.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局 / 淀川工事事務所 / 琵琶湖工事事務所 / 大戸川ダム工事事務所 / 淀川ダム統合管理事務所 / 猪名川工事事務所 / 猪名川総合開発工事事務所 / 木津川上流工事事務所 / 水資源開発公団 関西支社 / 滋賀県 土木交通部河港課 / 京都府 土木建築部河川課 / 大阪府 土木部河川室 / 兵庫県 土木部河川課 / 奈良県 土木部河川課 / 三重県 伊賀県民局

* ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。